

こんにちは、いつもお世話になっております

三栄です

第68号

発行元



発行人 紺野 琢生

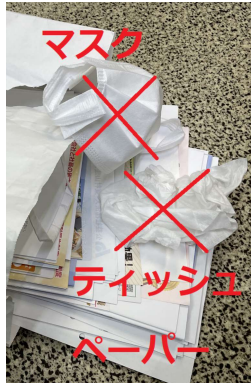


資源回収、再資源化の現場は、感染リスクと隣り合わせです



先日、当社が所属する組合で運営委託を受けているリサイクルセンターで、作業員の手で注射針が刺さってしまう事故がありました。乾電池の選別作業をしている際に、袋の中にインスリンの注射針が混入していたようです。すぐに責任者が病院に連れて行き、治療と感染症の検査を行い、とりあえず無事が確認されましたが、定期的にワクチン接種をしなければならぬことでした。注射針のような医療系の廃棄物は、そもそも通常のごみや資源の収集には絶対出してはいけないことになっており、市は改めて市民に注意を呼びかけました。注射針以外でも感染の

恐れのある廃棄物があります。コロナ禍で特に増えている使用済みのマスクやティッシュペーパー、古紙や古着の中にも混入していることがあります。不織布は紙でも布でもありません。紙おむつも紙ではありません。感染症の恐れもありますので、古紙や古着には絶対に混ぜないようお願いいたします。



そして、びん、飲料缶、ペットボトルも直接口をつけて飲むので、感染の恐れがあります。特に飲み残しがあったり、洗っていないとなおさらです。すすいで一定期間置いてから出して頂くと安全に回収が出来ますので、お住いの市の出し方に従って適切にお出し下さい。また、古紙やびん、缶などの資源物は、可燃ごみなどと違って回収の時はもちろんですが、選別作業の際にも人手に触れることになるため、感染の恐れのあるものが混入している場合、二度リスクにさらされることとなります。実際、現場の作業員からは感染リスクに対する不安の声が上がっています。私たち、資源回収業務に携わっている者は、市民生活に欠かせない業務に携わるエッセンシャルワーカーとして認知されており、回収業務を滞らせないために、絶対にコロナの感染者を出すわけにはいきません。市民の皆様には、改め

てのお願いになります。①使用済みのマスク、ティッシュ、紙おむつは古紙や古着に混ぜない。②びん、缶、ペットボトルは中をすすいで一定期間置いてから出す。以上のことを守って頂きますよう、宜しくお願いします。

三度目の緊急事態宣言発令！ごみ・資源はいつも程度の量でお願いします

緊急事態宣言が初めて発令された昨今の頃は、市民の皆様が外出自粛、自宅待機をされている中、多くの方が早めの衣替えや家の片づけをされたため、連休前後に資源物が大量に排出されました。特に古布は輸出先のロツクダウンで流通が止まる中、大量発生したことで、問屋での受け入れが困難になり、市民の皆様が家庭蓄を要請しました。一部の自治体では回収停止や焼却処分をせざるを得なかったところもありました。現在古布の流通は落ち着いておりますが、コロナの感染拡大や海外情勢によっては昨年のようなことが起こらないとは限りません。また、一度に大量に出されると回収作業が大幅に遅れます。ごみ、資源は、緊急事態宣言中もいつも通りの量を出されるようお願いいたします。なお、引越など古紙や古着がまとまってある場合は、当社への直接お持ち込みも出来ません。お気軽にお問い合わせ下さい。

ロゴマーク入りのパッカー車が仲間入りしました

